

第41巻 第4号 予告

特集「地方衛生研究所はいま(仮題)」

- 疾病対策の理想型を求めて……………倉科周介(東京都立衛生研究所)
 21世紀にからんで地方衛生研究所のあり方およびその背景
 ……………氏家淳雄(元群馬県衛生公害研究所)
 地方衛生研究所はいま—情報部門の強化を— ……西正美(石川県保健環境センター)
 衛生美学と地研戦略……………川本尋義(岐阜県衛生研究所)
 衛生研究所はいま—これでいいのでしょうか、衛生研究所の研究体制は—
 ……………海保郁男(千葉県衛生研究所)
 衛生研究所はどこへ行く……………能勢憲英(埼玉県衛生研究所)
 地方衛生研究所等の実態と国立公衆衛生院の教育……………中澤裕之(国立公衆衛生院)

第42巻 第1号：特集「エイズ(仮題)」

第42巻 第2号：特集「食品の安全性(仮題)」

編集後記

「公衆衛生研究」第41巻第3号をお届けします。当院の高石学会長のもとで行われた第51回日本公衆衛生学会総会も盛会のうちに無事終了し、ほっとしているところです。その学会で初めて取り上げられた地球環境問題に関するシンポジウムにも200余名の参加者があり、皆さんの関心の高さを伺わせました。最近では廃棄物の問題と並んで、何かしらの環境問題がほとんど毎日のように新聞、テレビを賑わして、我々環境問題に取り組んでいる者にとっては喜ばしいことですが、地球サミット以来、ムードが先行している感じがなきにしもあらずです。

本号では、「環境問題を点検する」という特集を組みましたが、この特集は、巻頭言でも触れられているようにこれまでの他の環境問題の特集記事とは多少視点を変えてみたつもりです。すなわち、単なる解説記事に終わるのではなく、これからの環境問題を自分たちの問題としてどう捉えていったらよいか、そしてさらに、公衆衛生従事者として、自治体としてどの様に考え、実行に移していくべきかを考える出発点にさせていただけたらと思っています。

地球上に生命が誕生して以来、あらゆる進化、分化を繰り返してきた自然界の生物に、何故これほど便利な車輪の原理を使って移動する生きものがいないのか考えてみたことはありますか？最近のはやりことば「環境にやさしい生活」、「地球にやさしい暮らし」は、一見我々に不便を強いているように感じます。しかし、それが本当は自然界の一部である人間にもやさしい生活のほずだと考えられるようになっていきたいものだと思います。

読者の皆さんの率直なご意見をお待ちしています。

(内山 巖雄)